

疏^{そこう}広と疏^{そじゅ}受の父子は士官後、身を引く時の機をみて官職を辞し故郷に帰った。

両

りよう

見

そ

機

を

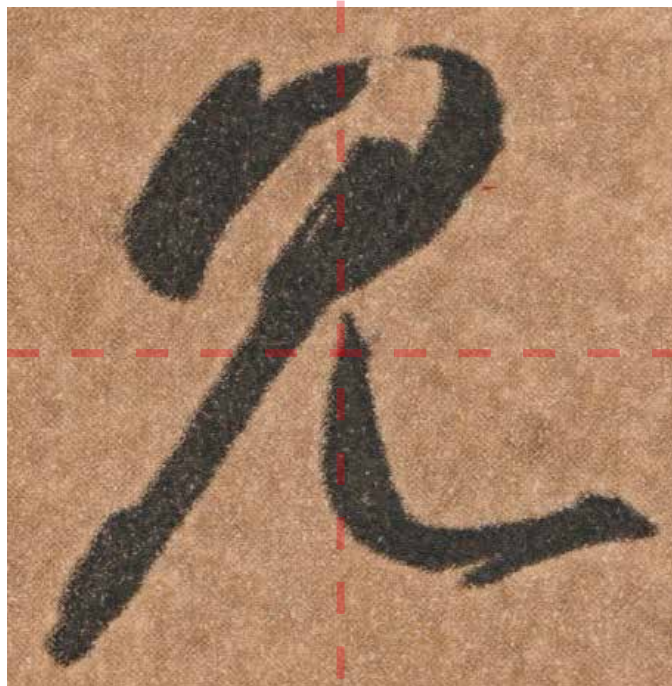
き

を

見

み

、



微

誰かが迫ったものでもなく、機を見ての勇退であった。

胆

ひも

を

ね

と

きては

誰

たれ

か

通

せま

らん。



支



人里離れたところに住み、物静かに暮らす。

索

さく

居

きよ

閑

かん

処

しよ

し、

索

居

閑

処

刪

魚支

世事には口を出さず、俗人と交わらずひっそりと暮らす。

沈

ちん

黙

もく

寂

せき

寥

りょう

たり。



● 侵

● 蕭

昔の人の思想を論じたり、

古いにしへをもとめてたずねろんじ、



侵

尤

元真●

●

自然の中を心のままにぶらぶらと歩く。



おもい

を



さん

じて

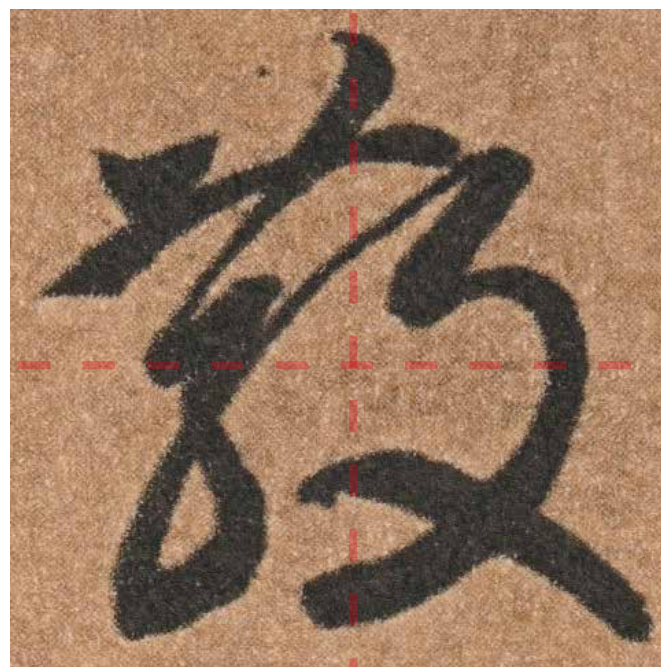


しょう



よう

す。



蕭



蕭

喜ばしい気持ちで心が満たされれば、

欣

よろこ

び

奏

あつ

まり

ふ

わずら

いを

遣

や

り、



支●

文



悩みは憂いは去り、楽しいことが自然に招かれるように集まる。

或

いた

みを

あ

しゃ

して

欽

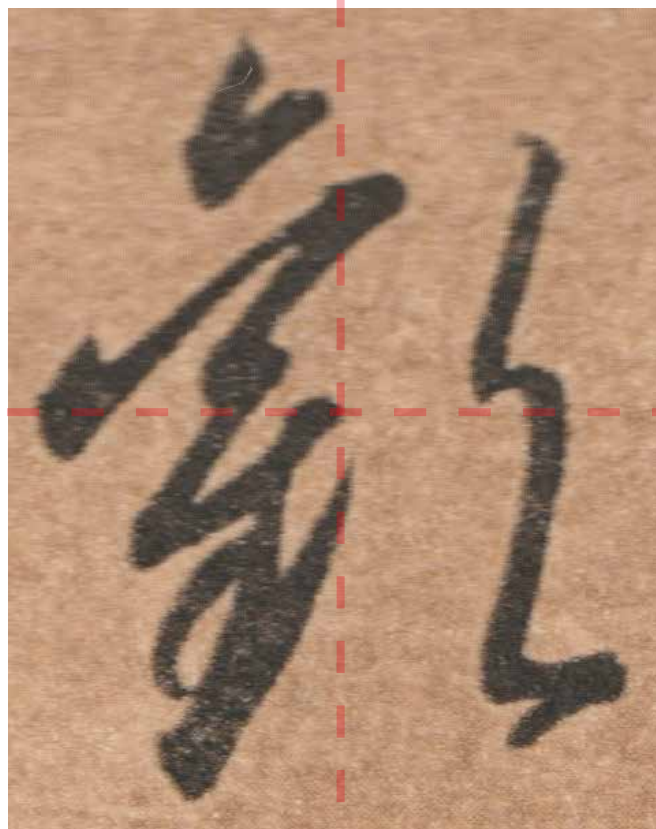
よろこ

び

ね

まね

く。



寒



蕭



溝には蓮の花が鮮やかに咲き、

きよ

か

てき

れき

魚●

歌●

庭園の草葉は生い茂り、木々の枝は豊かに伸びる。

園

えん

葉

もう

條

えだ

を

抽

ぬき

んず。

抽

條

園

葉

尤

元

蕭